

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人NAP atelierみるくやんぼる		
○保護者評価実施期間	R7年 1月14日		R7年 2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数) 3名	
○従業者評価実施期間	R7年 1月14日		R7年 2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数) 8名	
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個人の感性や情緒を尊び、芸術教育を通し支援を行っている。	わらべうた・楽器演奏・バレエ・ホルタリング等を通して、協調運動及び感覚統合を行っている。 わらべうたや総合芸術活動を通して、他者に関わる経験を積み、社会性を育み、社会生活における適応力を養う。	個人の成長や変化に合わせた支援を提供し行っていく。また、さらに充実を図るために児童一人一人の発達や行動をアセスメントする力を高めケースの検討を実施していく。
2	一人一人の全人的発達を促すよう適切かつ効果的な療育支援に務めている。	わらべうたや自立活動で他の人と協力し合う体験を通して、言語表現・コミュニケーションスキルを育み、自分の考えや、気持ちを他者に伝える力を伸ばすことを目的として行っている。 また、絵画・制作・楽器演奏・貝の収集/分類や標本作り等により、認知機能を育て適切な行動や判断ができるように支援を行っている。	職員の知識向上を図るために療育に関する勉強会や、外部からの講師を招いた講習会などを受講して支援者としての資質の向上をはかっていく。
3	児童の発達に応じた小集団での活動を行っている。	集団の中でのルールや手順を理解し、他児と楽しく関わる経験や社会性を身につける場所としての活動を行っている。	今後も、児童の発達に合わせた活動を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や他の子どもと活動する機会が少ない。	「放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他の子どもと活動する機会」を活動として提供できていない。	保護者からの要望など伺いながら、必要とされる交流などを検討していく。
2	保護者同士の交流の機会がない。	特別プログラムや講座(わらべうた)、勉強会などで交流を行なっているが、今回の評価において、保護者同士の交流や支援がないという結果が多かったため、特別プログラムや講座、勉強会などの案内の方法を工夫する必要がある。	特別プログラムや講座、勉強会の周知、参加人数の検討を行っていく。
3			